

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	さくらプラス桑名星川			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	7年 2月 22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小規模によるほぼマンツーマンで支援が行える。	小人数の為、職員との関わりも深く発達経過をしっかりと観察して愛着形成や信頼関係の構築がしやすい環境にある。	その子の個性や特性にあった関わり方ができ、専門的な目線からのアプローチを行っていく。
2	看護師の人数がしっかり確保されており、柔軟な対応が可能。	看護師同士の連携をしっかりととりながらも事業所全体でしっかり意見を交わしその子に必要な支援を多種職で連携をするように心がけている。	様々な障がい（医療的ケア）にも幅広く対応ができるよう経験を積み安心して預けることができる事業所を目指し取り組んでいく。医療的ケアが必要な子が増えてきた為、看護師の増員をして、よりきめ細やかなケアを行える体制を整えていく。
3	理学療法士が在籍しており、早期からの身体の動きや苦手な部分を分析して、遊びを交えて楽しみながらリハビリを取り入れている。	全身運動から手指動作までの動きをしっかりと観察して、できる部分は伸ばしながら、身体の発達に合わせて取り組んでいる。	一人ひとりの発達課題に合った支援をチームで取り組んでいる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等保護者同士での交流を主目的とする機会は設けられていない	必要に応じて、個別で話し合う機会は設けているが、全体としては取り組めていない	まずは保護者同士での交流を求めている保護者の人数やニーズの把握に努め、それを踏まえた、会の設定方法を考える必要がある。
2	昨年からご利用者の数が増えてきたことで、個々に合わせた活動スペースや、音に過敏な子やお昼寝する静かなスペースなど改善が必要。	個々の生活スケジュールに合わせて柔軟に都度対応しているが、うまく環境を整えられていない日もある。	活動スペースがその子に合っているのか、時間で場所を変え区切るのか、利用者が戸惑わないように明確にし、検証しながら確立していく必要がある。
3	個々に合わせた活動内容のバリエーションが少ない時がある。	一人ひとりの特性や活動力に合わせて行っているが、発達に合わせての活動がまだ模索中。	明確なプログラムの確立を完成していき、一人ひとりに合わせた充実した支援を行っていく。